

令和元年度

上勝小学校 「学力向上実行プラン」

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

研究テーマ

- ①話す、聞く力を伸ばす言語活動を取り入れた授業展開の充実
- ②学校と家庭の役割分担による家庭学習習慣の確立
- ③読書習慣の確立と読書時間・読書量の確保

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 森 康二	校長: 日野出英樹 教頭: 四宮桜 教務: 古田有美 学力向上推進委員: 森康二
-----------------	---

校長

日野出 英樹 印

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字・計算については、まじめに学習に取り組み、基礎学力が定着しつつある。	読み・書き・計算の基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	学期末の校内漢字・計算テストにおいて正答率80%以上にする。			
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
課 題 個人差があり、定着に課題がある。個人のみならず、きを把握し、個に応じた指導や家庭学習を充実させる必要がある。	・朝の活動(ドリル・読書・音読)、放課後のプリント学習等で既習内容の習熟を図る。 ・日記や行事の感想文などを書く活動を多く設定する。	・漢字、計算の確認テスト週1回程度、行う。 ・毎日日記指導を行う。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 体験活動に意欲的に取り組む。発表や表現活動に進んで取り組む。	学年の発達段階に応じ、聞く力や話す力を身に付け、考えを深めることができる。	学期末にアンケートを行い、「友達の意見を聞いて、自分の考えを伝えることができた」と答える児童の割合を80%以上にする。			
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
課 題 他者の意見を聞き、自分の考えを広めたり深めたりする力に課題がある。	各教科やふるさと学習、異学年間や校種間(保・小・中)での活動の中で、話し合い活動や表現活動を意図的・計画的に設定し、「話す・聞く」「表現する」力の育成に取り組む。	アクティブ・ラーニングを取り入れ、考えをまとめたり発表したりできる場を週1回以上設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 素直で意欲をもって学習に取り組むことができる児童が多く、課題の提出率も高い。	家庭学習や苦手な課題について、自分から取り組むことができる。	チェックカードにおいて、「自主勉強ができた」と答える児童の割合を80%以上にする。			
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
課 題 ・宿題など与えられた課題はできるが、それ以外の自主的な学習では、内容が乏しかったり学習時間が学年相応ではなかったりする児童もいる。 ・読書習慣が定着しておらず、読書時間、読書量が少ない。	①「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりチェックカード」を活用して家庭と連携を図りながら、自主的な家庭学習の習慣化につなげる。 ②「読書タイム」を実施し、読書賞を設けるなど、読書の時間を確保する。	①毎月1回、1週間家庭学習状況のチェックをする。 ②下学年は100冊以上、上学年は月80冊以上の読書量を目指す。			

令和元年度 学力向上ロードマップ

